

# 岐阜 翅

け い ち つ

岐阜県昆虫分布研究会  
岐阜大学教育学部生物学教室内

岐阜県の蝶調査チェック	
ポイントI	飯田 罔 昌 ..... 1
岐阜市内のウスバシロチョウ	金森伸一 ..... 6
揖斐郡徳山村のアカスジ	
キンカメムシ	金森伸一 ..... 6
1983年度ウスバシロチョウと	
ギフチョウの採集記録	飯田逸博 ..... 7
岐阜県産 <i>Nordstroemia</i> 属2種	
(カギバガ科・鱗翅目)について	尾藤成人 ..... 8
カミキリムシ数種について	金森伸一 ..... 10
紹介 岐阜県産ヤガ科蛾類	
663種になる	尾藤成人 ..... 10

## 岐阜県昆虫分布研究会

### 岐阜県の蝶調査チェックポイントI

飯 田 罔 昌  
Kunimasa Iida

数多くの虫屋の中でも特に蝶を研究対象とする人が多い。しかし、これらの人たちの中には、「珍品主義者」が多く、仲間よりも多くの個体を採る事ばかりに能力をついやしている事がほとんどであるため、本来の調査とはほど遠い状態にある。このような状態は別に本県にばかりあるのではなく、全国の虫屋さんはどこ県でも同じ状況のようである。そのため「普通種」の標本が「珍品種」の標本の絶対数よりも少なかったりする事がしばしばあり、大図鑑、地方同好会誌の中で資料をまとめる時、本当にモンシロチョウが「普通種」なのか心配する位にデータが少ないという事がある。そして、この様な事情で作業が進まなくなってしまう事すら珍らしくない。

岐阜県の昆虫(1982年、岐阜県発行)の中の「岐阜県のチョウ類」の項でも、データの片寄りが多く、まだ不十分な点が多い。従って、

どのような「普通種」でも何かチェックポイントを見つけて少しでも多くのデータが収集できるように調査を進めて行きたいものである。

「日本の重要な昆虫類の分布」の全国版(環境庁編、1980)によると、自然環境保全のための選定基準として示されているものは、

- A. その地方だけに生息する種(0)
- B. 限定された地方にだけ生息する種(6)
- C. 普通種であっても限界に分布する種(12)
- D. 絶滅に近づいているか確かに減少している種(0)
- E. その県で絶滅した種(0)
- F. 乱獲によって減少した種(2)
- G. 環境指標(例えば原生林、郊外、温帯林等の指標)となる種(0)

でありその内容は高山蝶、ゼフィルス、小型ヒョウモン類となっている。

精密な調査報告がなされていないため、ここ

## 啓 蒙 Vol.1 No.1 1983

では今までの資料に基づいてできる限りの選定区分を試みた。どのような「駄蝶」であっても、自然界の一員であり、生態系の中に位置付ける必要があるのでその点をも考慮してみた。

## セセリチョウ科

## 1) チャマダラセセリ

選定基準種のBに相当し、北海道東南部、東北地方の青森付近および宮城、秋田付近、長野を中心とした中部地方そして四国のおよそ5分布圏をもっている。岐阜県石徹白が本州の西限となっている。また、Dにも相当し、どの産地でも減少している。食草のミツバツチグリ、キムジシロは陽地性で、ゴルフ場、スキー場、別荘地等の開発された所や広大な草地によく自生しているので、この様な所で多産するが、林間の開けた小規模な草地に多産する事もある。

概して飛騨を中心に産地が多く、郡上郡、恵那に一部記録があるのみで、美濃地方は分布空白地帯となっている。

## 2) ミヤマセセリ

暖帯性落葉樹林帯に広く分布し、選定基準のGに該当する。

発生時期がギフチョウとほとんど同じであるため、地味な本種は見逃される事も多く、記録の少ない不幸な蝶である。食草はコナラ、クヌギで、高地ではミズナラであるが、ミズナラは本種幼虫の食いつきがあまり良くないため高地では珍しい。また、気温との関係で7月でも本種が採集されることもある。

## 3) ダイミョウセセリ

後翅が黒化する関東型と白帯を有する関西型との2型に区別されている。最近の学説では若狭湾東部と伊勢湾西部付近とを結ぶ線に中間型があるとされているため、選定基準のCに相当

する種である。記録として発表される時には、3型のいずれに属するかが明記されると分布の状態が良く分かる。

## 4) アオバセセリ

アワブキ科植物を含む温帯～亜熱帯性樹林(森林性)の指標種で、選定基準ではGとなる。岐阜県の記録は片寄りすぎている。現在のところ、飛騨地方では1,000 m 前後までの場所で採集されているが、記録の多い所での最高位の場所を知る必要性がある。また、食草の分布との関連性は最も重要な問題である。

## 5) キバネセセリ

前種とは逆の分布状態を示し、やや山地性の蝶であるため、岐阜県での記録としては飛騨山地、両白山地に生息している。

過去に比べ最近の記録が少なく、岐阜県ばかりでなく他県でもその様な傾向がある。食草であるハリギリの食餌されている場所が切り出され、別の有用樹に変えられていることが原因となって記録が減少している。

選定基準のDまたはGに相当し、温帯性樹林の指標となる。

## 6) ギンイチモンジセセリ

分布的には広がっているが、生息地は非常に局地的で、山地の草原、丘陵、河川の堤防、川原、鉄道の線路際等に生息している。人家付近の生息地では土地の開発、堤防の工事、土砂の採掘等で、すぐに絶滅する可能性が高い種である。

選定基準のDおよびGに相当し、温帯～暖帯性気候の草原、荒地の指標種とされている。

岐阜県での記録は飛騨地方一帯、東濃～中濃、蛭ヶ野、伊吹山地と地域的に片寄っている。

## 7) タカネキマダラセセリ

本州の高山蝶として人気の高い蝶で、北アル

プス亜種と南アルプス亜種との2亜種がある。長野県の上高地が分布の中心であるが、長野県指定の天然記念物になっているため、自然に岐阜県での採集が進み、一部では乱獲になっている事もある。発生地は通常の人達が入らない地域である場合が多いため絶滅する事はない。

しかし、雪害による環境破壊で草草が無くなり、絶滅する事も心配されるが、これも自然の成り行きかとも思われる。

選定基準はBであり、Cでもある。また、亜寒帯性森林限界の指標種でもある。

#### 8) ホシチャバネセセリ

全国的にみると分布が非常に片寄っている。ある意味では選定基準のB、Cに相当する。

近畿地方を中心に大きく空白地帯があり、今までは美濃地方も空白になっていたが、美濃加茂市附近で発見され注目されている。全体的にみると、垂直分布の面でも水平分布の面でも珍しいことと思われる。

#### 9) ホソバセセリ

南方系の蝶であるため、飛騨地方では珍しく、記録もほとんど無い。垂直分布としては800 m附近までと思われる。また、逆に濃尾平野のような所でも採集されるが、どこにも生息する種ではないため、普通種であっても分布的には興味深いものがある。暖帯性草原～荒地の指標種とされている。

#### 10) スジグロチャバネセセリ

過去には非分布区域となっていた西濃山地でも、多くのマニア達によって採集され、注目されている。また、この地域で採集された個体は長野県産のものに比べるとかなりの個体差がみられる。

選定基準のCとDに相当すると思われる。

#### 11) ヘリグロチャバネセセリ

前種に良く似ており、分布的にも同じである。しかし、本種の方が岐阜県では珍らしいため分布も片寄りが激しい。どちらかと言えば草原性が強く、岐阜県では個体数が少ない。

選定基準のCとDに相当すると思われる。

#### 12) コキマダラセセリ

本種は山地性であり、飛騨地方より両白山地一帯では高標地の草原に多い。一方中濃・東濃では丘陵地にも生息している。一部には100 m程の低山地でも確認されている。

選定基準のDに相当するが、環境指標地域としては、かなり様子が異っている。

飛騨高地では温帯性草原、中濃～東濃では暖帯低地湿原、また、西濃山地では温帯性荒地に生息し、各地域によって分布状態には差がある。

#### 13) ヒメキマダラセセリ

一般に低山地から高標地に幅広く分布しているが、どこにでも生息する種ではない。また、平野部でも生息地があるが全体的には珍らしい種であるといえる。温帯性草原の指標種である。

#### 14) アカセセリ

岐阜県は本種の分布上の西限となっており、高標地の草原が分布する環境とされている。しかし、一部の地域では谷間の様な所にも生息している事が確認されている。図鑑等の知識による先入観にとらわれると、本種の正しい分布状況を見失うことにもなりかねない。

温帯性草原～荒地の環境指標種で、選定基準のCおよびDに相当する。

#### 15) キマダラセセリ

普通種であり、高標高地には分布が少ないため珍らしい種といえる。人家附近の藪にも多数

## 啓 蟿 Vol.1 No.1 1983

生息していたが、一時期の農業散布で個体数が減少した。しかし、最近やや増加してきた。

環境指標としては、暖帯～温帯性草原とされている。

## 16) コチャバナセセリ

寒冷地の年1化と低地の年2化とが区別される。寒冷地産はやや小型で地色が強く暗化し、性標の位置がややずれている個体もある。

普通種で飛び方が速いことや、マニア、初心者に人気がないため記録が少ない。

本種には上記のような変異があるため、年1化性のものと年2化性のものとを区別する必要がある。標高何米で年1化になるのかはまだ分っていない。

## 17) オオチャバナセセリ

岐阜県では高標高地に少なく、約1,500 m位までと思われる。一般に普通種であり、年2化のものでは一部が黒化し白斑が消える個体が遺伝的に出現する。以前に各務原市の一部で確実に採集されたが、現在では生息不明である。また、最近本種が減少しているが、原因については明らかでない。

選定基準はDに相当するが一部はEである。

## 18) チャバナセセリ

広く熱帯に分布しているが意外に寒さに強く、11月の終りでも花に吸蜜する本種の姿が見られる。夏期には南方より飛来する個体が少ないため記録が少ない。また、発生のピークが秋になっているため、採集シーズンが終わったと思っている人が多いため記録が少ないと思われる。

## 19) ミヤマチャバナセセリ

山地、平地にみられるが、個体数は少ない。分布的にも局地的であり、記録を調べると中濃～東濃では少ない。高標高地における生息地は

1,000 m前後といわれているが、山地で採集された場合の標高数を明記する必要がある。

## 20) イチモンジセセリ

どこにでも普通に産しているが、本種をコレクションの対象として採集する人は少なく、それどころか少しの標本しか持たない人が多い状態である。記録が非常に片寄っているため、本場に普通種なのか否か分らないのが現状である。

## アゲハチョウ科

## 21) ウスバシロチョウ

疎林を交えた温帯性気候の草地の環境指標種となっているが、実際には人家の近くの茶畑等の草地に多い。ほとんどの場合人間の手の入った場所に多数生息している。

自然状態の産地(人の手の入っていない場所)で本種を発見した場合、環境を詳細に確認する必要がある。

## 22) ギフチョウ

文献上、岐阜県で最初に発見されているため、我が岐阜の虫屋の間では別格の種として取り扱われている。非常に人気が高い種であるため多くの生息地が確認されている。分布上変異が大きいこと、個体変異、異常型が多いことも人気の高い要素となっている。そのため本種の調査がほぼ終わったという人もいるが、まだ分布上の迷を秘めている。本種は暖帯性落葉樹林帯に広く分布し、選定基準のB、D、Fに相当する。両白山地では温帯性落葉樹林のブナ帯の尾根添いでも発見されているため、さらに分布調査が必要である。

## 23) ヒメギフチョウ

一時、岐阜県産のファウナとして消えそうであったが、最近発見されて虫屋一同喜んでいる。全国的にみると、北海道のエゾヒメギフチョウ、東北地方のミチノクヒメギフチョウ、中部地方

のヒメギフチョウと3分布区域として分けられる。

平湯産のヒメギフチョウが特化しているという発表が一部でなされているが、中部地方のヒメギフチョウの中では大差はない。

リュードルフィアラインで見ると、確かな証拠が無いままに、なぜか高根村がヒメギフチョウ分布園に入っている。早く結論を出す必要がある。

#### 24) ジャコウアゲハ

広く熱帯に分布する種であり、標高の高い所には生息しない。高地には食草となるウマノズクサが無いからだと思う。なぜか墓地に多くの産地がある。一説には線香の臭が天敵も寄せ付けられないからだといわれている。本種は野外でのヤドリバチの一種による寄生率が非常に高い。

選定基準のB・D・Eに相当し、一部の生息地は提防であるため、秋に野火を行うため減少しつつある。墓地においても草刈りを行うため食草が無くなり減少の原因ともなっている。

#### 25) アオスジアゲハ

暖帯性常緑広葉樹林帯に広く分布する。

現在の自然としてはこの様な植生がほとんど無く、人家の屋敷林、神社の森等が残っているにすぎない。そのためにマニアはわざわざ、その様な場所に入って採集する事はほとんど無いため記録が片寄っている。

遺伝型が4系統ある。一部の産地では、高い率で、エサキ型、ハンキュウ型が発生している所もある。飼育する場合、よく観察を要する。

#### 26) キアゲハ

北方系の蝶であるが分布は広がっている。形態的に問題があり高地では年1化があるとされているが、本種の場合、低地で発生している

個体が山頂に集まる性質があるため、もともと高地で発生していた別の個体との交流がある場合が多く、純粋の年1化の無くなる可能性は少ないかもしれない。一応は年1化がありえるため、採集の際は十分に注意してほしいものである。

#### 27) アゲハチョウ

地域変異がほとんど無い蝶で、人家付近に多い。この蝶もマニアはあまり採集しない。しかし、飛騨高地の様な高標地では非常に珍しい。現実には北アルプス高地、両白山地の高地では分布空白地になっている。「なんだアゲハか」と思わずに、もっと多くの記録を残す必要がある。

#### 28) オナガアゲハ

暖帯～温帯性の蝶で、やや山地性であるが高地にはいない。分布はやや限られている。温帯性森林の指標種となっている。薄暗い所に多く、伐採されてオープンランドになると本種の飛来が弱まり別の所に蝶道を作る場合が多い。

#### 29) クロアゲハ

前種と同様に、暖帯～温帯性の蝶で、前種と同じ様な分布パターンであるが、平地～低山地性である。そのため北アルプスの高標高地は分布空白地帯であり、記録をみてもほとんど西濃、岐阜市付近に多く、片寄りがはげしい。春日村では無尾の(♀)が採集されている(未発表)。劣性遺伝とされているが、この様な記録は区別して発表してほしい。

#### 30) モンキアゲハ

暖地性常緑広葉樹林帯に広く分布し、年々北上し分布を広げている話題の多い蝶である。日本産の3大巨蝶で独特の班紋があり、目撃でも間違いは無いものと思われる。西濃北方の記録が多く、東濃、飛騨地方での記録は珍しい。

31) カラスアゲハ

アキリデス亜属としてはあまり美しくないが、他のアゲハより美しく、地域の変異が多いため人気が高い蝶である。記録としては一応出揃っているが、一部未報告記録地域もある。低山地～山地どこにも生息する。

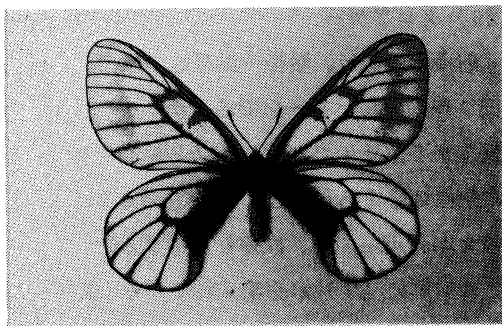
水鳥谷は多産地として有名であり、多くの採集者が入っているため、ミヤマカラスアゲハとの交雑種である F<sub>1</sub> が時々採集されている。人為的な雑種を得るのは容易であるが自然での F<sub>1</sub> は非常に珍し

岐阜市内のウスバシロチョウ

金森 伸一  
Shinichi Kanamori

岐阜市内のウスバシロチョウ *Parnassius glacialis* Butler については近年その報告をみないが、以下の記録を報告する。

- 岐阜市佐野；5-V-1982, 2 ♂♂ 1 ♀,
- 3-V-1983, 2 ♂♂ 1 ♀.
- 岐阜市上雛倉；3-V-1983, 2 ♂♂ 2 ♀♀.



*Parnassius glacialis* Butler ウスバシロチョウ  
岐阜市佐野産 5-V-1982 ♂

岐阜市内産のウスバシロチョウは、いずれの地区でも少なく、又岐阜市周辺の例えば、山県郡高富産等と同様に、同じ西濃地区の北部の揖斐郡徳山村産のウスバシロチョウと比較して大型で白っぽい。なお写真撮影の労をとられた松尾登貴雄氏に謝意を表する。

い例であるため発表が望まれる。

32) ミヤマカラスアゲハ

前種と混棲しているがやや少ない種である。また美しい本種だけを採集する人もいる。やや山地性であるため、分布が限られている場合が多い。平野でもキハダがあれば時々発生する事もある。温帯～暖帯森林性の蝶であるので、これらの森林が伐採されて有用林に植樹し直された一部の地域では、非常に少なくなった。

全体としては分布が拡散している種である。

揖斐郡徳山村のアカスジキンカメムシ

金森 伸一  
Shinichi Kanamori

金緑色に赤色の条斑のある、美麗種のアカスジキンカメムシ *Poecilocoris iewisi* Distant は比較的分布も局限されており、個体数も少ないものであるが、次の記録を報告しておく。

- 岐阜県揖斐郡徳山村戸入, 26-VII-1981,
  - 1 ex. (金森伸一採集、蔵)
- シヨウマの白い花に来ていた。

啓蝨の原稿を募集します

- 原稿は原稿用紙に書いて下さい。
- 出来上り5ページ(400字詰原稿用紙約20枚)以上の報文を一挙掲載する時は、原則として、超過分費用を著者負担とします。
- 原稿の書き方は、投稿規定が出来る間、本号を参考にして下さい。不備な原稿は、編集者が訂正を求めることがあります。
- 原稿の送り先、照会先は次のとおりです。

〒500 岐阜市加納南陽町三丁目  
岐阜県立加納高等学校内 田中正弘 宛

1983年度 ウスバシロチョウとギフチョウの採集報告

飯 田 逸 博  
Itsuhiro Iida

1983年、ウスバシロチョウ・ギフチョウの2種を各地で採集したのでその記録を報告しておく。採集地名は岐阜県の場合には県名と郡名を省略し、岐阜県以外の場合には郡名を省略し原則として大字名まで示した。

白鳥町干田野 5月22日 2♂♂  
武芸川町谷口武芸洞 5月3日 4♂♂  
岐阜市内では本種が極めて少なく、みた個体はすべて採集した。しかし、他の地域では本種はいずれも多産している。

1. ウスバシロチョウ Parnassius glacialis

Butler

滋賀県伊吹町上野	6月5日	1♂1♀
谷汲村横蔵木曾屋	5月12日	2♂♂
岐阜市三輪北野阿原	5月3日	1♂
同 外山伊洞	5月5日	1♂
同 網代下雛倉	5月5日	3♂♂1♀
同 網代上雛倉	5月5日	3♂♂1♀
同 方県佐野大洞	5月5日	3♂♂
同 方県佐野大洞	5月7日	1♂
伊自良村上願	4月29日	3♂♂
同 掛	4月29日	5♂♂
高富町大桑穴洞	4月29日	11♂♂
高富町大桑斧田	4月29日	4♂♂
同 大桑斧田	5月3日	5♂♂
同 大桑南泉寺	5月3日	2♂♂
同 大桑高札	5月3日	2♂♂
美濃市洲原立花	5月1日	3♂♂
同 洲原須原	5月1日	1♂
同 洲原保木脇	5月1日	1♂
美並村上田木尾	5月1日	2♂♂
大和村万場	5月22日	1♂1♀
白鳥町前谷	5月15日	1♂
同 歩岐島	5月22日	1♂1♀

2. ギフチョウ Luehdorfia japonica Leech

福井県和泉村小谷堂	5月8日	1♂
同 上	5月15日	27卵
岐阜市網代下雛倉	4月3日	3♂♂
同 網代下雛倉	4月5日	3♂♂
同 方県佐野	4月5日	1♂
同 芥見和光町	4月4日	1♂
同 芥見岩井	4月7日	35♂♂18♀
高富町梅原小田	4月5日	17♂♂2♀
同 西深瀬	4月5日	2♂♂
同 佐賀	4月5日	1♀
関市倉知	4月4日	1♂
本巢町山口スボミ谷	4月5日	2♂♂
大野町野	4月5日	1♀
白鳥町石徹白	5月8日	19卵
高鷺村西洞蛭ヶ野	5月15日	2♂♂
荘川村野々俣	5月15日	2♂♂
同 六廐	5月15日	1♂
同 牧戸	5月22日	1♂
久瀬村東津汲櫓	4月17日	8卵(確認)
伊自良村掛	4月3日	2♂♂(目撃)

本種の1983年の記録のうち、岐阜市周辺のものは一部割愛した。成虫はみたものをすべて採集した。

岐阜県産 *Nordstroemia* 属 2 種 (カギバガ科・鱗翅目) の分布状況について尾 藤 成 人  
Narihito Bito

筆者らは先に、岐阜県産蛾類目録 (第 3 報) を著わし、その中でカギバガ科蛾類 25 種をリストしたが (尾藤・田中, 1973)、うっかりして井上 (1970) の論文を見落したため、ヤマトカギバ *Nordstroemia japonica* とエゾカギバ *Nordstroemia grisearia* との関係を充分検討しないまま、ヤマトカギバのみが県下に産するとして目録を完成させてしまった。従って目録中のヤマトカギバのリストは、充分なものでない。

その後ヤマトカギバについては田中 (1972) が、エゾカギバについては武田ら (1979) が岐阜県に生息していることを明らかにした。しかし、その両種の岐阜県における分布状況は、その後公表された採集データが少ないこともあって、依然よくわかっていない。そこで今回、筆者が確認し得たヤマトカギバとエゾカギバの採集データをここに記し、県下における両種の分布状況を知る資料とするとともに、尾藤・田中 (1973) の目録の補完訂正としたい。

なお発表に当り、貴重な標本を供与くださった遠藤弘志、藤原麒一郎、笠井初志、田部達也、田中正弘、山内克典の諸氏にお礼申し上げます。

***Nordstroemia* 属 2 種の採集記録**

ヤマトカギバ *Nordstroemia japonica* Moore  
**益田**：萩原町西上田, 14- VIII - 1969, 1♀ (田中正弘); **郡上**：白鳥町六ノ里, 9- V - 1965, 1♂, 20- VIII - 1966, 1♀ (田中, 1972); 白鳥町初納, 23- IX - 1977, 1♀, 20- IX - 1980, 1♂ (船越, 1982); **東濃東**：福岡町田瀬, 1- IX - 1974, 1♂

(遠藤弘志); **東濃西**：土岐市賤ヶ洞, 23- VIII - 1982, 2♂♂ (尾藤成人); **揖斐・本巢**：谷汲村華厳寺, 1- V - 1975, 1♂1♀ (藤原麒一郎); 春日村六合, 9- IX - 1979, 1♂, 24- IX - 1979, 2♀♀ (藤原麒一郎); **中濃**：伊自良村長滝, 25- VIII - 1973, 3♂♂1♀ (田中正弘); 武芸川町小知野, 12- VII - 1975, 1♀ (笠井ほか, 1983); **岐阜**：岐阜市三田洞, 24- IV - 1972, 2♂♂, 26- IV - 1975, 4♂♂ (遠藤弘志), 12- VI - 1976, 1♂ (田部達也); 岐阜市椿洞, 20- IX - 1979, 1♂ (藤原麒一郎); **西南濃**：養老町養老公園, 4- V - 1974, 2♂♂ (田中正弘), 17- IX - 1972, 2 exs, 22- IX - 1972, 1 ex, 14- IV - 1973, 1 ex, 5- V - 1973, 3 exs, 12- V - 1973, 1 ex, 11- VIII - 1973, 1 ex, 7- IX - 1973, 4 exs, 27- IV - 1974, 1 ex, 11- V - 1974, 1 ex, (尾藤ほか, 1978); 垂井町平尾, 4- VI - 1977, 1♂ (田部達也),

エゾカギバ *Nordstroemia grisearia* Staudinger  
**飛騨東**：上宝村中尾, 16- VIII - 1974, 1♂ (田中正弘); 上宝村平湯, 14- VIII - 1977, 1♂ (遠藤弘志), 12- VIII - 1980, 1♂ (尾藤成人); 朝日村胡桃島, 20- VI - 1974, 1♂ (遠藤弘志), 1- VI - 1979, 1♀ (尾藤成人); 宮川村小谷, 2- V - 1975, 1♂ (遠藤弘志); 高山市日影平, 20- VI - 1978, 1 ex, 31- VII - 1978, 1 ex (武田ほか, 1979); **飛騨西**：河合村天生峠, 13- VIII - 1977, 1♀ (笠井初志); 白川村三方岩山トンネル, 9- IX - 1978, 1♂ (笠井初志); 白川村大白川, 5- VII - 1980, 1♂, 6- IX - 1980, 1♀ (船越, 1982); **郡上**：高鷲村蛭



ヶ野, 23- VIII -1974, 1♂ (田中正弘); 東濃東:  
 福岡町田瀬, 1- IX-1974, 1♂ (遠藤弘志); 揖斐  
 ・本巢: 徳山村白谷, 21-V-1977, 2♂♂1♀ (遠藤  
 弘志), 徳山村品谷, 21-V-1977, 1♀ (遠藤ほか,  
 1981); 中濃: 板取村加部, 23- VII -1979, 1♂  
 1♀ (山内克典); 西南濃: 南濃町庭田, 31 - VIII  
 -1980, 2♀♀.

※ 記載の方法は「岐阜県の昆虫」(岐阜県, 1982) の  
 「岐阜県産昆虫目録」の記載要領に準じた。

*Nordstroemia* 属幼虫の食草は、ヤマトカギバ  
 がコナラ、クヌギ、クリであり、エゾカギバはブナ、  
 ツノハシバミ、ダケカンバといわれている (井上,  
 1982)。そこで、岐阜県におけるコナラ、クリ、ブ  
 ナの分布状況と、前記採集記録にもとづく  
*Nordstroemia* 属二種の成虫の採集地点を図1  
 に示した。

これによれば岐阜県の場合、ヤマトカギバの  
 採集地点と標高100 m以下のコナラ、クリの分布  
 区域が、またエゾカギバの採集地とブナの分布  
 区域とがよく一致した。

一方、ヤマトカギバとエゾカギバの混生地は、  
 現在のところ福岡町田瀬(標高約400 m)しか知  
 られていないが、図1から推測すると、標高200 m  
 ~600 mの地域、たとえば現在ではヤマトカギバ  
 しか採集されていない六ノ里、西上田、初納あるい  
 はエゾカギバしか採集されていない庭田、白谷、加  
 部などでは、両種が混生している可能性が考えら  
 れ、今後のより詳しい調査が望まれる。

なお、この分布様式に似た分布ををすると思わ  
 れる蛾の例に、藤原(1982)が報告したヤガ科  
*Bena* 属がある。

参 考 文 献

尾藤成人・田中正弘(1973)岐阜県産蛾類目

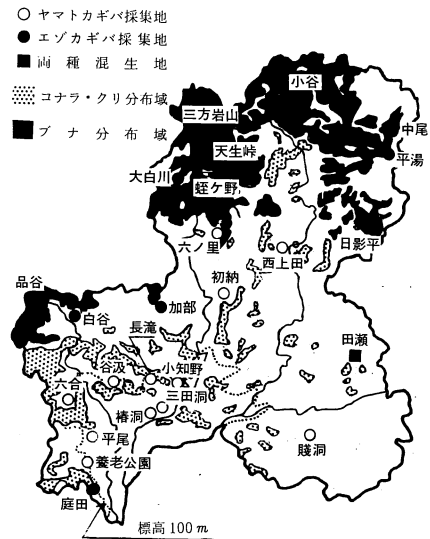


図1. 岐阜県における*Nordstroemia* 属  
 2種の採集地とコナラ・クリ・ブナの分布域

録(第3報) Lymantriidaeドクガ科・Thya-  
 tiridae トガリバガ科・Drepanidae カギ  
 バガ科. 佳香蝶, 25(95): 33-37.

尾藤成人・遠藤弘志・笠井初志・田中正弘  
 (1978) 養老公園の蛾類. (岐阜昆虫団体  
 研究会): 37 pp.

遠藤弘志・尾藤成人・笠井初志(1981)揖斐川  
 上流域の蛾相. 岐阜県揖斐川上流域生物相  
 調査報告書. (水資源開発公団・電源開発

K.K.・中部電力K.K.): 111-179.  
 船越進太郎(1982)岐阜県北西部の蛾相.(自刊):  
 66 pp.

藤原麒一郎(1982)岐阜県産アオスジアオリンガ  
 とアオスジアオリンガの分布について. 岐  
 阜県の昆虫.(岐阜県): 88-89.

Inoue, H.(1970) Supplementary notes on  
 the Japanese Drepanidae (I). Tinea, 8  
 (I): 185-189.

井上 寛(1982) トガリバガ科. 井上寛ほか,  
日本産蛾類大図鑑, 1: 418-425.

笠井初志・尾藤成人・田中正弘(1983) 岐阜県  
武芸川町小知野の蛾類.(印刷中).

武田 享・田部達也・桜井宏紀(1979) 岐阜県  
高山市日影平の蛾 I, ヤガ科・シャチホコ

ガ科・トガリバガ科及びカギバガ科. 岐阜大  
農研報, 42: 15-32.

田中 蕃(1972) 岐阜県郡上郡北部の蛾(II),  
佳香蝶, 24(91): 25-33.

文化庁(1970) 天然記念物緊急調査植生図・  
主要動植物地図: 21 岐阜県.

### カミキリムシ数種について

金 森 伸 一  
Shinichi Kanamori

1983年度採集カミキリムシより、岐阜県およ  
びその周辺の比較的興味のある数種について報  
告する。

1) ニセハイイロハナカミキリ

Rhagium pseudojaponicum Podany

岐阜県高山市原山, 4-V-1983, 3exs. 5-V-  
1983, 1ex.(金森伸一採集 蔵)

貯木場の針葉樹材に来ていた。

2) クリストフコトラカミキリ

Plagionotus christophi Kraatz

岐阜県高山市原山, 4-V-1983, 1ex.  
(金森伸一採集、蔵)

貯木場の広葉樹材に来ていた。

3) コジマヒゲナガコバネカミキリ

Molorchus kojimai Matsushita

岐阜県大野郡清見村巢野俣,  
4-V-1983, 1♂, (金森伸一採集、蔵).

ナシの白い花に来ていた。

4) ミドリヒゲナガコバネカミキリ

Molorchus hattori Ohbayashi

長野県木曾郡開田村恩田原, 12-V-1983, 1♂.  
(杉山晴男採集, 金森伸一蔵).

ユキヤナギの白い花に来ていた。

### 紹 介

#### 岐阜県産ヤガ科蛾類 663 種になる

尾 藤 成 人  
Narihito Bito

筆者らは先に、岐阜県産の蛾類の内ヤガ科661  
種をリストアップした(岐阜県,1982,岐阜県の昆虫:  
329-397)。ところが、その後に発刊された「日  
本産蛾類大図鑑」(井上ほか,1982 日本産蛾類大  
図鑑, Vol. 1: 1-968, Vol. 2: 1-556, pls. 1-  
392, 講談社, 東京)で、モトグロコヤが Xantho-  
grapta basinigra Sugi 及びヒメクロアツバ  
Sinarella rotundipennis Owada が新種とし  
て記載され、岐阜県高鷲村蛭ヶ野産モトグロコヤ  
と岐阜県白鳥町六ノ里産ヒメクロアツバが副模  
式標本に指定された。この結果、岐阜県産ヤガ科蛾  
類は 663 種になったので、ここに紹介しておく。

啓 けいちつ 蟄 Vol. 1 No. 1

発行日/昭和58年(1983年)8月20日

編集者/田中正弘 尾藤成人 木野村恭一

発行者/岐阜県昆虫分布研究会

〒502 岐阜市長良城之内  
岐阜大学教育学部内  
TEL 0582 (31) 4161 内線270  
郵便振替 名古屋 5-8149  
年額会費 3,000 円

印刷所/名港印刷株式会社  
名古屋港区築三町 3-6